

2017年6月9日

## 課題発見ゼミへの期待 吉田クラス

1)

私は地域創生に興味があり、その中でも特にデザイン思考による設計というものを通して地域創生に興味があるからだ。また、以前から徳島大学ファーマーズマーケットの存在を知っており、ぜひ携わりたいと考えていた。吉田教授のゼミではそのデザインをすることができるので、私にぴったりだと考える。また到達目標の欄に、「やってみる」態度の形成、とあるが、なんでも行動に移してみないとわからないことがたくさんあるので、このゼミで行動力を養い、実践に移すことにより自分の肌で学びたい。そうすることで将来私がやりたいと思っている地域活性の糸口を見つけることができると考える。

私は大学生活を通して、コミュニケーション能力や問題発見力、課題解決力を身に付けたいという目標がある。その目標を達成するためにも、このゼミにはたくさんコミュニケーションをとる機会を設け、課題に向き合える環境づくりや課題提示、そして、主体的に行動できる人間の育成を期待したい。

質問：具体的にどのような形で徳島大学ファーマーズマーケットのデザインに携わるのか知りたい。

2)

私には、昔から自分から積極的に物事にかかわったり、討論の場などで自分の意見を周りに主張したりすることが苦手だ。言いたいことがあっても緊張してしまい中々言い出せずに終わってしまうこともあった。このクラスの、まちづくりや、市民も参加するという学生ショップなどをみんなで話し合っつくるというところに惹かれ希望しようと思っている。地域の人や、同じ学生同士で話し合うことで、自分の消極的なところを少しでも改善したい。

3)

私は、吉田先生のゼミを受講したいと考えている。

私は今まで、言われたことや与えられた仕事にはきちんと取り組んできたが、それだけで満足してしまい、どうすればより良くなるのか、試行錯誤して自分で考えるということをしてこなかった。それゆえ、このゼミを受講することで、問題発見と課題解決の方法を効果的に身につけることができると考えた。また、私は、これから社会人として働く際に

必要になる、コミュニケーション能力を身につけたいと思っている。このゼミでは、対話する力、地頭力、コミュニティへの参加とリーダーシップも身につけることができるという点にも魅力を感じた。

質問：シラバスの受講者へのメッセージの欄に、メール、ブログ、ツイッター、Facebookなどを利用すると書いてありますが、アカウントを授業用に作成するのですか？

4)

私が興味を持った授業は、吉田先生のクラスだ。授業の目的は地域の未来設計、社会イノベーションの基本的事項を実体験的に学ぶ。その過程を通じて、問題発見と課題解決の方法を身につけ、地域の持続に貢献できることを目指す。私は高校生の時から地域のまちづくりに興味がある。吉田先生の授業を受けることで、アメリカのオレゴン州ポートランドのまちづくりから身近な地域と照らし合わせて、その地域の抱える課題を発見したい。また、「徳島大学ファーマーズマーケット」に参加して地域の農家の人と触れ合う中で、この企画の長所を見つけない。以前に「徳島マルシェ」に参加した。その時に感じたことは、店の店員さんとお客さんの距離が近いことである。会話することで交流ができ、アットホームなイベントになる。このように地産地消にするにしても、ただ単にその場所の品物売るのではなく、農家さんと話すことで輪ができ長い関係ができる。また、情報を仲間で共有する力も必要である。自己解決するのではなく、周りに話すことで自分の知らないことを知れたり、見落としていたことを知れたりできる。そして、話すことで発表内容がより良いものとなる。このようにグループディスカッションすることをしたい。

質問：授業予定どおりできるのでしょうか

5)

今私はデザインの観点からまちづくりに取り組む仕事をするという目標を掲げて勉学に励んでいる。観光地としてまちをデザインすることもそうだが、地元の人たちが集う商店街や公園などを活気あふれる場所にするといった方面でのデザインが私の目指すまちづくりだ。このゼミのカリキュラムにある「徳島大学ファーマーズマーケットのデザイン」は、地域の人と密着したまちづくりに観点を置いたものであるようなので、私の将来像をもっと具体的にし、目標の実現に向けて必要となる知識や技術を理解し身に着けるためにも重要なものとなる。実際にそういった企画に個人で参加することは容易ではないので、ぜひこのカリキュラムを通して経験値を得、次につなげたい。

6)

私は課題発見ゼミナールでは、吉田先生の授業を受けたいと思っている。

私は将来、地方公務員として働きたい。少子化が進む現代の日本をよりよくするために、地域コミュニティを確立することが重要だ。高齢者を支援する、子どもやその親を支

援するためのコミュニティを地域で作ることで一人一人が暮らしやすい環境を作ることが出来る。そして地方から日本を活性化させる。公務員は、それを達成するために、直接地域住民に働きかけることが出来る仕事だ。

授業で地方創生のための課題を見つける。また、実際の地域コミュニティの例から細かな課題や解決策を考える。このような問題を発見し、解決策を考えていくといった体験は、将来地方で働く際に活かすことが出来る。

7)

いま活動しているのが地域に関係しているものだ。(ひとつむぎであったり TOEC 農園であったり)

大学生になってから、受動的に行動するのではなく能動的にするようにしている。

しかしそういった活動をしているなかで、ボランティアに参加するのも受動的なのではと考えるようになってきた。ただボランティアに参加するのではなく自分で考えて地域に貢献できるようになりたい。

吉田先生クラスのシラバスで「やってみる」態度形成とあった。わたしに足りないのは「やってみる」態度である。だからこのクラスで「やってみる」態度を身につけて能動的に活動したい。

8)

後期の課題発見ゼミナールでは、吉田敦也先生の授業を受講したいと考えています。

私は、高校時代ユネスコ部に所属しており、地域活性化を目的とした活動を行っていました。その経験を通して、地域に貢献することの大切さや喜びを知り、シビックプライドを育むことが出来ました。そのため、吉田先生の授業は私が学びたいこと、興味のあることに一致しています。以上の理由から、後期の課題発見ゼミナールでは、吉田先生の授業をぜひ受講したいです。

## 複数を選択

+熊坂・佐藤・山口

私が今気になっているゼミは2つある。

1つ目は熊坂先生・佐藤先生・山口先生のゼミである。私は2年で地域共生コースを選択するつもりだ。障害は、「まちづくり」をしていくにあたって考慮しなければならないことであるから、このゼミで障害について考えることは、必ず今後の活動に役立つ。また、心

理学的観点と倫理的観点という違った角度から障害を考えていくことで、私が苦手としている、物事を多面的に理解する能力を向上させたい。

2つ目は吉田先生のゼミである。何か新しい取り組みをしていく際に、同じような取り組みの事例を見て利点や欠点を知ること、自分たちの取り組みを成功につなげていくことは非常に重要なことだ。しかし、今までこのことを実際に自分たちの活動に活かしたことがない。ゆえに、ポーランドのまちづくりをモデルにして、徳大ファーマーズマーケットをデザインするという取り組みを通して、他の事例と比較検討しながらプロジェクトを進めるということを学びたい。また、「まちづくり」におけるW型モデルを実践体験的に学ぶことで、今後の活動の基礎を作っていきたい。

## +衣川

今回の授業は、後期の課題発見ゼミナールの説明であった。今回の説明を聞いて、私は吉田先生のクラス、もしくは衣川先生のクラスを選択したい。吉田先生のクラスをなぜ選択したのかというと、地域課題解決や社会イノベーションの基礎的事項を実践的に学ぶことが出来るからである。実践的に学ぶことによって、座学だけよりも、より詳しく学ぶことが出来る。衣川先生のクラスを選択した理由は、読むこと、書くこと、調べること、考えること、意見を述べること、意見を聞くこと、批判することなど、大学で学ぶための力を養成することが目的であるからだ。大学で学ぶための力は必ず社会の役に立つ。なぜなら、大学で学ぶ力を養成し、大学で学ぶことで、社会に役立つ研究や課題解決などが出来るからだ。以上のことから、この二つのクラスは、すべてのクラスの中で、特に自分にとっても、社会にとっても役に立つ授業ということが言える。

## +佐藤（健）

私は佐藤(健)クラスもしくは吉田クラスを希望する。

佐藤(健)クラスは臨床心理学、健康心理学、社会心理学に関する社会的課題を発見することが目的の一つであり、心理学の観点から社会を考えることで、我々が普段生活している社会に人間の心理がどれほど関わっているのかを理解できると期待するのでこのクラスを希望する。

吉田クラスは学生ショップを運営し、農家や事業者と共創で社会体験ができるということで、経営を直に学べるチャンスであると期待できるので希望する。

## +内藤

- ・私は以前からヨーロッパの歴史や、都市の形成の歴史的背景を勉強したいと思っているから。
- ・歴史を踏まえていろいろなところについてみたいから。
- ・自分の興味関心を反映できるゼミであると思ったから。
- ・災害がおきた時に行政任せではない自分たち主体の防災活動を学びたいから。
- ・地域がかかえるもんだいを理解し、支援をしていきたいから。
- ・ボランティア活動がしたいから。

私は吉田先生のゼミと内藤先生のゼミのどちらかに入りたいと考えている。どちらのゼミにも関連していることは、地域おこしに関係していることと、フィールドワークやイベントのデザインなどの実際にやってみるといえることができるところだ。私は2年のコース選択では地域創生コースに入りたいと思っているので、課題発見ゼミでも地域系のことがやりたいのだ。また、このゼミで新しい地域おこしのアイデアを学べるかもしれないので、このどちらかのゼミに入りたいのである。

まず、吉田クラスでは徳島ファーマーズマーケットのデザインをすることで、イベントの企画能力を養うことができる。また、地域の農家や事業者の方と協力することで現在の地域が抱える問題点や可能性を知ることができる。そして協働・共創・協業の基礎を学ぶことによってグループで物事を進めていく基礎を身につけることができる

内藤クラスでは、フィールドワークの方法を学ぶことができる。フィールドワークを現地で行い、めずらしい体験ができるということは魅力的である。また、フィールドワークの方法を学ぶことで、自分で色々な地域や国で調査ができるようになる。まだ自分が何を専門として学んでいくのかは決めていないが、何を専門とするにしてもフィールドワークができるに越したことはない。

いずれにしても、グループで共同する能力を身に付けたい。

私が吉田先生のクラスを選んだのは、まちづくりに興味があり国内のものについては本を読み知ることができましたが、海外のものについては知識が少なく、このクラスで取り上げられるアメリカオレゴン州ポートランドのまちづくりについて知りたいと考えたからです。このクラスでは日本国内の知識で止まっている私を、海外のことをより知りたいと思えるようにしてくれることを期待しています。

内藤先生のクラスを選んだのはフィールドワークを取り入れた授業を行うと説明していたからです。フィールドワークの講義は受けているが知識だけで実際にしたことはない。そこで学んだことを生かせるクラスであるここが良いと考えました。

### ＋三浦＋上原

私は主に吉田先生の H クラスと上原先生の F クラスとで迷っている。H クラスを選んだ理由はこれからの社会、未来のことを考えるという夢のあるゼミであるからだ。また、私は広報の仕事をやりたいため、パソコンスキルを上げたいしデザインも触りたいと考えていた。そのため、とても自分に合っているものに思えた。F クラスを選んだ理由は今の総科の基礎(社会学)の授業が大変面白いからだ。社会学の中でも特に法律や刑罰に関する分野が好きなので選んでみたい。両方とも、「なんかよさそう」というフィーリングが決定の大きな部分を占めているがそういった根拠のない「面白そう」によってさまざまな分野に足を突っ込むことができるのでフィーリングはある程度は大切にしたい。そういった意味では三浦先生の D クラスにも興味がある。これこそ本当に理由がない。ただ「面白そう」これだけだ。こういった小さなことから考える幅が増えればいいなと思っているため、今のところ絶対これがいいというのはない。

### ＋熊坂・佐藤・山口＋内藤

私が、後期の課題発見ゼミで選択したいゼミは、現地点では 3 つ(仮)ある。

・一つ目は、熊坂、佐藤、山口クラスのゼミである。私は「異文化理解」に興味があり、多面的なものの見方を身に付けたいと考えているからだ。また、心理学的観点、倫理的観点から、障害について考えることができるだけでなく、プレゼンテーションの基礎や文献検索法が学べるという点がこのクラスの魅力であると考え。多面的なものの見方、プレゼンテーション能力は私に足りない力であり、身に付けるべき力であるからこのクラスを選択したいと考えている。

・二つ目は、内藤クラスのゼミである。ガイダンスで、「郷土料理や各国料理あるいはハラルフードのように集団のアイデンティティに深く関わっていることがある」という説明をうけたが、食を通じて世界を見るという方法も「異文化理解」のアプローチ方法としては有効であると私は考えた。なぜなら、単に「異文化」について学ぶのではなく「食」という日常的なものを通じて実際に体験することで、「異文化」についての理解がより深まるのではないかと考えたからだ。

・三つ目は、吉田クラスのゼミである。授業の中で私が特に身に付けるべき力は「ブレ

インストーミング」であるからだ。問題発見、課題解決のためには必要なスキルであり、日常生活でも(レポートの論じるべき点を見つけるときなどに)「ブレインストーミング」は必要であると考えからである。

今回のゼミ選択にあたって、自分の興味で選ばずに、客観的に考えることは大切であることに気づいた。もし、単に自分の興味だけで選んでいたらここまで迷うこともなく簡単に決めているだろうと考えるからだ。冒頭で決まっているのは現地点では三つであると述べたが、自分が身に付けるべき力は何かと考えたら、実際は三つでは絞り切れていない。しかし、総て書ききれないため仮で三つに絞った。自分にとってどの授業が必要で、どのような力をつけるべきか考えなければならない。

#### **+ 葭森+内藤**

私は、後期の課題発見ゼミナールで履修したいと考えているクラスが3つある。はっきりとは決まっていないものの、私は将来市役所や町役場に就職して地域が抱えている課題を発見し、住民の意向に沿う形で課題解決に取り組んでみたいと考えている。将来仕事する上で必要となる力を身につけるのにふさわしいものとして3つのクラスを考えている。

1つ目が、内藤先生のクラスである。今回の授業では「食」について取り上げるということだ。各人の興味・関心に合わせて食がもたらす豊かさや食が抱える問題について考え、実際に地域に赴き、体験することでさらに理解を深めることができる。フィールドワークで多くの人と交流することでコミュニケーション能力の必要性にも気づける。将来必要となる課題発見能力・コミュニケーション能力を身につけるきっかけとなるのでこの授業を履修したいと考える。

2つ目が、葭森先生のクラスである。この授業では徳島に焦点を当て、何気なく過ごす日常の風景から不思議だ、面白いと感じるものを見つけ、調査し、資料を集め、考察するということだ。地元徳島で仕事をしたいと考える私にとって、徳島について知ることは最も重要である。調査では、文献を使って調べるだけでなく、近隣の住人や役所の人に聞いてみるなどより多くの手法で調査をしていきたい。

3つ目が、吉田先生のクラスである。この授業では学生ショップ「やおや YaO-Ya」を経営し、ローカル野菜の仕入れと販売を体験するということだ。一連の流れを通して問題を発見し、自分で考えて行動することはどんな職業においても必要となってくるはずだ。社会人としての基礎力を身につけるためにこの授業を履修したいと考える。

#### **+ 葭森+上原+内藤**

A (葭森) :自分が小学生の頃から育った徳島について知りたいから。私は大学に入って徳島のことを聞かれる機会が多くなったが、きちんと答えることができない。この機会に徳島の魅力を堪能したいから。

F (上原) :裁判を傍聴したい気持ちが小さい頃からあり、裁判を傍聴することは今の徳島で何が起きているのかも知ることが出来る。このような体験は他ではあまり出来ないし、絶対に自分のためになり、良い経験であるから。

H (吉田) :私は去年徳島大学のファーマーズマーケットに行った。地域と蜜となれるこの活動は素晴らしいと思った。来年もし徳島大学に行けてたら参加したいなと受験生ながら考えていた。このクラスに行くことで高校の時からファーマーズマーケットに参加したいという小さな願望を実現出来るから。さらに、日本だけでなく、アメリカのまちづくりを知れて、視野が広くなれそうだから。

J (内藤) :南海トラフ大地震は向こう 30 年以内に約 70 パーセント起こると言われている。( [http://www.jishin.go.jp/main/yosokuchizu/kaiko/k\\_nankai.htm](http://www.jishin.go.jp/main/yosokuchizu/kaiko/k_nankai.htm) 6月11日アクセス) 生きている間に起こる可能性の高い地震についてきちんと知りたいから。高校の時とは違う実践的な防災活動を学びたいから。